

2018 Fall Global Ambassador 酒井 麻衣さん 帰国後インタビュー

◆留学を決めたきっかけは何でしたか。

一番は、私の在籍する学部での卒業必須条件だったからです。私自身、まだ一度も海外に行ったことが無いということもあり、知らない土地で日本とは違った文化や人に触れて勉強することにとっても興味がありました。時期は成人式や在籍大学での卒業までの授業履修スケジュール、今後の就職活動を考えて2年生の後期に行くのが一番良いと考え決めました。

◆今回セント・メリーズ大学に留学先を選んだ理由を教えてください。

なぜ留学先をカナダに決めたかといいますと、カナダは今までにたくさんの留学生が行っており、治安が良いことで知られていたからです。その為、留学先国は早めにカナダに決め、その中で大学を絞っていかうと思っていました。セント・メリーズ大学のスタッフが来日していた際のSAFカナダ留学説明会に参加したときに、大学スタッフのお話を実際に聞いて、留学前にセント・メリーズ大学の特徴をいろいろと知ることができたことが、留学先を決める一番のきっかけとなったかなと思います。ハリファックスのセント・メリーズ大学に決めた理由の一つ目は、その大学で語学学校に通うのと同時に大学の専門科目も履修できるコンカレント・プログラムがあったからです。語学力の向上は留学の主な目的の一つでしたが、せっかく海外の大学に一学期間通うので、実際にその大学の授業の内容を見たり雰囲気を感じたり、学生と一緒に勉強したいという思いがありました。二つ目は、ハリファックスの環境が勉強するのにとても適していると思ったからです。ハリファックスはカナダの最東端にある町で、私は今までその土地の名前を知らなかった。大きな都市と違って、いい意味で向こうの人たちが留学生慣れしていないところなので、語学力の向上にはとても良い土地なのではないかと考えました。実際、街の人は私に話すときも現地の人に対してと変わらないスピードで話していましたので、スピーキング力やリスニング力を試される機会が他の所より多いと感じました。アジア系の人や沢山住んでいるので、現地の人からすると私たちが現地に住んでいる人なのか、英語を学びに来ているのか見分けがつかないためだと思います。最初はそのスピードに慣れず聞き取るのが大変でしたが、徐々に慣れてきますし、現地の人達は私たちの日本語訛りの英語を一発で聞き取ってくれることに感動しました。ヨーロッパに留学している友人の話や、「なかなか自分の英語が通じない」と苦戦している人が多いようでしたが、様々な種類の英語を話す人たちがいる環境だったため、「話す」ということにはまったく困りませんでした。

◆まず留学先国から決めて、その後大学を絞っていったのですね。カナダの寒さは平気でしたか？

全然ダメでした（笑）寒さは本当に厳しかったです。ハリファックスはカナダの他の街に比べると雪はほとんど降らず、私が留学していた期間でも雪が降ったのは1、2日間くらいだけでした。ただ海沿いで風が強いのでとにかく寒く、11月後半～12月頃は常にマイナス10度くらいでした。その上雨も沢山降ります。日本の台風並みに風が強く、日本から持って行った折り畳み傘が使いませんでしたので、みんなレインコートでフードをかぶって過ごしていました。

◆では次は授業について教えてください。酒井さんはコンカレント・プログラムに参加されていましたが、語学学校はどうでしたか。

私の参加したコンカレント・プログラムの語学授業はUBP（University Bridging Program）というプログラムで、語学力強化プログラムのみで参加した学生が受ける授業とは違うものでした。

時間割から全く別で、一緒にホームステイしていたステイメイトは語学プログラムのみ参加していたので、朝家を出る時間も、授業が行われるフロアも違いました。

私は朝8時半から12時ごろまでが語学の授業で午後は学部授業に参加していましたが、ステイメイトは9時から12時ごろまで、お昼休憩を挟んで13時から15時頃まで語学の授業だったようです。語学みのプログラムでは最初にクラス分けのテストが行われますが、UBPは一定の英語レベル以上の学生ばかりなので、特に最初の授業でのクラス分けテストはありません。クラスは、日本人と中国人でほとんどを占め、私のクラスは一人だけトルコ人がいました。先生が語学学校内で母国語を使うことに非常に厳しく、授業中は同じ国籍の学生同士で固まらないように配慮してくれました。

クラスの国籍の割合によっては難しい場合もあったようですが、私のクラスでは国籍問わずみんな仲良くできる雰囲気づくりができていたので、休憩中もみんなでお菓子を食べながら英語でお喋りしていました。

語学学校ではどの授業も面白く、特にプレゼンテーションのクラスが好きでした。日本人の学生と中国人やトルコ人の学生のプレゼンテーションとでは、パフォーマンスの仕方が変わってきます。その違いを見て自分も学べる点がたくさんありました。プレゼンを行う数がとにかく多く、大きなプレゼンテーションの課題が月に2回ほどありました。一人15～20分くらいのスピーチを1週間でスライドも含めて準備し、翌週には本番のプレゼンテーションがあります。ほとんど個人のプレゼンテーションでしたが、セメスターが始まって2か月たったくらいの頃にグループプレゼンもありました。テーマはバラバラでしたが、一番印象に残ったのはポスタープレゼンでした。あまり日本では行ったことのない形式のプレゼンテーションでしたが、模造紙にイラストを付けてプレゼンテーマを書いていくというポスタープレゼンは、海外では割と主流のようでした。日本ではパワーポイントを使ってプレゼンテーションを行うのが普通なので、初めて行った形式のプレゼンが珍しく、面白かったですね。

苦手だった授業はライティングの授業です。もともと私はライティングが苦手だったので、慣れるま

では大変でした。語学学校では常に、制限時間内に内容が良く文法の正確な文章をどれだけたくさん書けるかということ学びました。例えば、事実に対して自分の意見を述べるときにどのような単語を使えばよいか、どういった文法にするべきかなど、留学前はそういった専門的なライティングの勉強をする機会がなかったのですが、語学学校での授業の中でとことん教わることができました。

また、文章を書くうえでの文献の探し方に関して非常に厳しく教わります。出版年が新しいもの、ネット記事ではなく本が良いなど細かく限定されていたため、必要な情報をどのように探せばいいか、どのように図書館の人に相談したら効率よく見つかるのか、そういったことを授業で教えてもらえたのはとても為になったと思います

外国人学生のレベルはとても高く、最初はクラスの中で自分だけが出来ていないような気がして落ち込むこともありましたが、授業を受けているうちにだんだん語彙力もついてきて、ライティングも出来るようになり自信もつきました。

UBP は午後に学部の授業を受ける学生だけが受けるプログラムでしたが、宿題の量は特に考慮されることなく、むしろ沢山出されてしまいます！（笑）その為、数十ページも文献を読まなければいけない学部の授業との両立が本当に大変でした。

私のクラスは国に関係なく皆が和気あいあいとして楽しいクラスでしたが、授業中は常に集中し緊張感がありました。授業のレベルは高く、間違えたり問題が分からなかったりしたこともたくさんありましたが、失敗が恥ずかしくないと思えるようになったのもセント・メリーズ大学での語学学校の授業が初めてでした。クラスや授業の雰囲気はとてもよかったと思います。

◆語学学校の授業だけでも忙しかったのですね！学部授業はどのようなものを受けていたのですか。

社会学の授業を受けていました。100人以上の大講義の授業で、1年生向けの授業だったので正規の学生にとっては易しめのものだったようですが、授業で話される英語のスピードはやはりとても速く、最後まで大変でした。初めて授業を受けたときは最初から最後まで何が何だかわからないまま進んでいったので、本当に戸惑いました。けれど自分で工夫して頑張れば、テストの点数もきちんととれると思います。現地の学生はほとんど禁止されているようでしたが、最初のうちに先生に断り、「留学生だから」ということで特別に講義を録音させてもらいました。帰りのバスの時間で授業の録音を聞き直し、授業のスライドを見なおして講義の大枠を把握してから教科書を読む、という復習をしていました。他の人よりもしっかりと復習の時間をとらないと、周りの人のレベルに追いつくことができないので、勉強時間は本当にたくさんとっていました。

私が選んだ社会学の授業はUBPの学生から人気のある授業だったこともあり、割と外国人の割合は多い方で、100人中10名くらい日本人がいました。選択する授業によっては日本人が自分一人ということもあったようです。歴史の授業をとっていた友人は日本人が一人のみで、レポートの数も非常に多かったようで語学学校の授業との両立が本当に大変そうで、授業の先生とアポイントをとって頻りに質問しに行っていました。

レポート形式の授業を受けていた学生は語学学校のライティングの授業と関連づけて、習ったことをそのまま活かすこともできるかなと思います。私が受講した授業はテスト形式で『～～理論』というような専門的な固有名詞を覚えるものが多く、語学学校の授業がそのまま活かせることはなかったのですが、語学学校での授業のおかげで教科書を読みやすくなったかなと感じることはありました。

◆**語学学校の授業もあった中、学部授業を選ぶのは大変でしたか。**

SAF を通して留学した学生は全員午前中が語学の授業で、午後に学部授業を選択するというプログラムでしたので、学部の授業を選択するのはそこまで大変ではありませんでした。ただ、UBP に参加する学生の中には午後が語学の授業という人もいて、午前中の学部授業は限られているので履修登録は少し大変そうでしたね。朝早いのは大変でしたが、語学の授業が午前中だったのはラッキーでした。

◆**酒井さんはセント・メリーズ大学ではどちらの国の学生さんとの交流が多かったのですか。**

語学学校の授業が一緒だった中国人のクラスメイトがとってもいい人達ばかりで、みんな日本に興味のある学生ばかりだったのですごく仲良くなることができました。

これからセント・メリーズ大学に4年間通うために英語の勉強をしているという人が多く、留学中は何度も一緒にご飯を食べに行ったり、映画を見に行ったりしました。また、帰国するときは私たちの送迎会も企画してくれました！

◆**それは素敵ですね！では、授業外で何か参加されたアクティビティはありますか。**

市立図書館で行われていた英会話ボランティアに参加していました。カナダは移民の国なので、留学だけでなく仕事のためにカナダへ移り住む外国人がたくさんいます。その中には、英語をあまり話せないままカナダへ来る人もいるため、私の住む町では毎週末図書館で、みんなでコーヒーを飲みながら英語でお互いの文化や生活について話すというアクティビティがありました。

図書館の人がボランティアで行っている無料の英会話クラスで、毎週土曜日に2時間くらい行われていて、私は留学期間中毎週参加していました。

参加している方は国籍も年齢層も本当にバラバラです。同じ年くらいの人がいれば、30代くらいの人や主婦の方もいるため、例えば同年代の中国人の女の子は大学の授業の話をするし、主婦の方は連れてきた子供の話や昨日の晩御飯は何をつくったという話をしてくれました。話す人によってテーマが変わってくるのでとても面白かったです。

大学では Japan-Canadian Society という文化交流のサークルに参加しました。毎週水曜日の夜にみんなで集まり、様々なイベントが開催されていたのですが、水曜日はちょうど授業が非常に忙しい日だったので、あまり沢山参加することはできませんでした。日本の文化を紹介するというイベントが休日に開催されたことがあり、みんなでお菓子や料理を持ち寄って、現地の方に説明したりしながらお喋りをしました。日本でサークル活動をしていた人はその経験をもとに、20人くらいでよさこいを

披露していた人や、カナダ人学生が沢山所属する和太鼓のサークルに入っていた人もいました。海外のサークルは日本のサークルとは異なり、規模の大きなことを目指して真面目に取り組んでいるものばかりでした。私はボランティアサークルに少しでも参加したことがあったのですが、アフリカの子供たちの教育支援をすることを最終的な目標にして、そのためにカナダで資金集めの為のイベントを企画するというものでした。どのように資金を集めるかということを一から企画して、普段はそのための話し合いが行われています。話し合いに少し参加したときは、参加している学生がバンバン意見を出していました。時にはできっこないような意見も出るのですが、みんなでどんどん意欲的にアイデアを出している環境が刺激的でした。例えば BBQ だったり、Movie Night だったり、チケット代の一部をボランティアの為の資金に充てていました。最終的な目標である「アフリカ行き」をみんな目指しているサークルだったのですが、アフリカへ行く予定時期が私の帰国した後ということもあり、話し合いに少し参加した程度でしたが、それだけでもすごく楽しかったですね。そのサークルは私と一緒に参加した日本人が 3 人くらいいたのですが、私たち以外はほとんど現地のカナダ人ばかりでした。

あと、現地の学生ボランティアがツアーガイドを行ってくれるショートトリップがあり、語学学校の学生を車で 1、2 時間くらいのペギーズコーブ島や、メープルシロップ工場へ行くツアーなどがありました。カナダでは氷の上でメープルシロップを凍らせたメープルキャンディーというものが有名で、メープルシロップ工場ではメープルキャンディーを作る体験ができます。参加費は行先によってバラバラでしたが 5~20 ドルくらいで、中には旅先でのランチ代も含まれているものもあるのでお得だと思います。ショートトリップ以外でもハリファックス周辺の観光地を巡ったり、ハロウィンではカボチャのランタンを掘るイベントや、仮装コンテストなどもありました。

ハロウィンの衣装は見つけるのがなかなか大変だったのですが、ホストマザーが自宅で託児所を行っている方だったので家にもいろいろな衣装が沢山あり、ぴったりのサイズの魔女の衣装を借りることができました

◆いろいろなアクティビティに参加していたんですね。それではセント・メリーズ大学の施設について教えてください。どんな施設を利用していましたか。

大学内には自習室やコンピュータールームがある図書館、普段ご飯を食べるフードコート、ジムがありました。図書館は多くの学生が毎日夜遅くまでそれぞれの課題をやっていたり、クラスメイトとブレゼンテーションについて話し合ったりしていました。海外の大学の図書館は 24 時間開いていて、自習室は一日中ずっと利用することができますし、飲食も可能です。私は何かを食べながら勉強することにはなかったのですが、隣で勉強していた学生がいきなりマクドナルドを食べだしたりしたことはありました（笑）

私のホームステイ先の部屋には小さな机はあったのですが、勉強できるほどの広いスペースはなかったため、大体図書館の自習室にこもって勉強をしていました。

学部の授業は週2日のみでしたので、午後の授業がない日は、語学学校の授業の後お昼ご飯を食べてから、13時頃から20時くらいまでずっと図書館で課題や調べものをしていました。

◆セント・メリーズ大学の食堂（カフェテリア）はどのようなものでしたか。

テーブルが何十卓もあるフードコートのようなカフェテリアがあり、アジアンフード、ハンバーガー屋さん、ピザ屋さんの3店舗ほどくらいが入っていました。どれも比較的高く、どのランチセットも1000円程度しました。けれどアジアンフードのお店はとても美味しかったので、高かったのですがたまに使っていました。

普段は家からお弁当を持ってきたり、大学内の他の場所にあるファストフード店でご飯を買ったりしました。大学内はカフェテリアだけでなく、他の場所にもカフェがいくつかあり、特にカナダにしかないティム・ホートンというチェーン店は安くて美味しかったのでよく行っていましたね。お店によって料金はバラバラです。

◆ホームステイ先からお弁当を持って行くときは自分で準備されていたのですか？

家庭によって様々だと思うのですが、私の滞在していたところは夕ご飯が少し多めに作られていて、前日の夕ご飯の残りを持って行ったりしていました。ホストファミリーが起きる時間よりも私たちの方が早いので、朝食は自分で準備をしていました。私のホストファミリーは「この冷蔵庫にあるものは全部あなたたちのものだから、特に聞かずに使っていいよー」と言ってくれていたもので、自分の好きなようにサンドイッチを作ることもありました。

◆滞在先から大学までの通学はどうか。交通機関等は利用しましたか。

私が滞在していた家から大学まではバスで1時間ほどでした。その為、午前の語学学校の授業に間に合うために毎朝6時には必ず起きていました。私のバス停は大学から遠いところなので、イスに座れていましたが、毎朝通学の時間帯はバスも混むので人によっては立ったまま30分ほどバスに乗っていなければならないという人もいました。バスの料金は日本と変わらないくらいで、片道200円くらいだったと思います。

◆毎朝早かったですね。滞在先についての良かった点、悪かった点があったら教えてください。

私のホストファミリーは4人家族で、4歳と2歳の男の子が2人いたのでいつもとても賑やかでした。また、私の他にも愛知県の中京大学からの日本人学生がもう1名滞在していました。

良かった点は、ホストファミリーが今までも留学生を受け入れている家庭だったので、生活について戸惑うことがほとんど無かったという点です。私のホストファミリーは私たちがもう大人であると考えて、放課後のお出かけなどについては自由にさせてくれました。家では常に私たちのことを気にかけてくれて、夕ご飯を食べた後は一緒にテレビを見てみんなでお喋りしていました。

悪かった点は野菜があまり食べられず、カナダに来た当初お腹を壊してしまったことです。それぞれの家庭によって毎日食べるご飯のメニューはかなり違います。私の滞在した家庭の場合、ホストマザーがシーフードを全く食べられない人で、基本的にマッシュドポテトとお肉ばかりの生活でした。味は美味しかったのですが、初めのうちは体が慣れるまで大変でした。けれどジャガイモとお肉の生活にも徐々に慣れて行きましたし、自分で食事を作っていいか聞いて、お昼ご飯だけは自分で好きなものを作って持って行っていたので途中からは全く平気でした。

ホームステイ先では最初の方に少し食生活で困った以外は不便なことは何もありませんでした。家の地下に私たち留学生用にバスルームが用意されていて、1階のリビングを挟んで、2階でホストファミリーが生活していたので、音が響くこともなく、シャワーの時間なども全く厳しくない家庭だったのでラッキーだったと思います。

ホストマザーがドイツ出身の方だったのですが、家族でカナダに移住していたようで、ホストマザーの祖父母もハリファックスに住んでいます。街の中心地から車で1、2時間の郊外のログハウスに住んでいて、私も何度か連れて行ってもらいました。夜になると本当に真っ暗になるところなので、初めて肉眼で天の川や流れ星を見ることができました！

セント・メリーズ大学のアクティビティでも郊外に行ったり、カヌーに乗ったりするツアーがあったのですが、私の場合は最初の方にホストファミリーのお祖父さん、お祖母さんのところで先に体験することができました。

◆それは貴重な体験ですね！それではハリファックスの街の雰囲気はどうでしたか。

街の雰囲気はいつも静かでのんびりしていました。町の人みんな優しく、お店でご飯を食べるときや買い物をするとき、いつも親切にしてくれました。娯楽はそこまで多くなかったので大学の勉強をするのには適した環境だと思います。治安もとてもよかったです。大学の友達とご飯を食べて夜遅くに家に帰ることも多々ありましたが、一回も危ない目には逢いませんでした。ハリファックスは高齢の方と小さい子供が沢山住んでいるところなので、私が学校から帰宅する頃の時間は街中がとても静かになります。夜は街灯も少なく暗くなるので、もちろん海外で生活する以上危機管理はとても大事だと思います。

また、ハリファックスには日本食料理屋さんも沢山あります！港町なのでシーフードが沢山とれるので、お寿司屋さんがいっぱいあります。中心地のダウンタウン内にある5、6店のお寿司屋さんのなかでも、口コミ1位と言われているお店はアジア人だけではなく現地のカナダ人からも人気で、平日の夜でも満席でした。お腹いっぱいになるくらい食べて1500円ほどなので、思っていたよりも高くなくお手頃で、とても美味しかったです。留学中は日本食が恋しくなってしまうこともあったので、お寿司屋さんだけではなく、おでんや牛丼、焼き鳥が食べられる和食居酒屋などにも結構行きました。

◆それは日本人にとってありがたいですね！（笑）普段、休日はどのように過ごしていましたか。長期休暇には旅行等されましたか。

休日は市立図書館での英会話ボランティアに参加したり、課題を進めたりしました。ときどき、中国人の友達と一緒にご飯を食べたり映画を観に行ったりしました。3連休があった時に友達とトロントへ旅行しました。間近で見るナイアガラの滝はとても迫力があり、感動しました。

トロントの市街地では有名なCNタワーを訪れたり、大きなショッピングセンターで買い物をしたりしました。トロントはハリファックスと全く違いとても都会で、遊べる場所も沢山あったのですが、私はしっかりと勉強できるハリファックスへの留学でよかったなと思います。

◆交通の便はどうでしたか。

特別困ったことはありませんでした。バスは何十本も便があり、もしバスを逃してしまったとしても少し歩いて違うバス停から他の経路で家に帰ることができました。また、少し意外でしたが、深夜便もあり、遅い時間だと0時台のバスも走っていました。

ハリファックスではバスが主な交通手段だったので、毎月70ドルの定期券を購入するとどの路線のバスも利用することができますし、フェリーに乗ることもできます。

ハリファックスの港の向こう岸にダートマスという街があり、バスで行くこともできるのですが、フェリーだと約5分で着きますし、10~15分間隔で出ているのでとても便利です。私が一番お気に入りの図書館がダートマスにあったので、フェリーも頻繁に利用していました。

◆渡航時にいくらぐらい持っていきましたか。その金額は十分でしたか。

渡航時は現地通貨で2万円ほど持って行きました。私はカナダに到着して次の日にクレジットカードを使えるか確認したので現金はほとんど使いませんでした。でも到着した次の日すぐに学校に行かなければならない人もいると思うので、やはり1~2万円ほどの現金は持っておいた方がいいのではないかと思います。現地ではデビットカードを使って必要なときに現金をおろしていました。

◆普段は月いくらぐらい使いましたか。

普段はバスの定期代、友達との食事代に使い、ときどき洋服を買うのに使いました。

毎月4万円ほどだったと思います。せっかくカナダに来ているのでそこでしか体験できないイベントなどは積極的に参加しました。またカナダの冬はとても寒いので、その土地でアウターやブーツなどは買った方が良くと思います。アウターやブーツはやはり高価なものなので、その時は1ヶ月に5、6万円ほど使いました。

また携帯電話は、出発前にプリペイド式のSIMカードを購入しておき、到着後すぐに利用できるような準備していました。毎月インターネットも不自由なく使った状態で月5000円ほどでした。

他の学生は到着後すぐにホストファミリーと一緒に購入しに行っている人が多かったと思います。た

だ、人によってはホストファミリーが忙しく連れて行ってもらえないというケースもあったようで、自分で調べて携帯電話を購入するまで1週間くらいはインターネットが使えない学生もいました。ただ、大学でも街中でもWi-Fiを使える場所は多く、ホームステイ先でもネットは利用できたので、そこまで不自由ではないと思います。

◆**今回の留学は、就職活動に活かそうですか。**

今はまだ2年生なので就職活動の実感がないのが正直なところですよ。(2019年2月時点)

カナダは非常に留学しやすい反面、日本人が沢山いるので、「留学先でこれをやるぞ!」という本当に明確な目標を持って行かないと、ただ勉強するだけの留学になってしまいます。その為、今回の留学は、『就職活動のため』というよりも、日本に帰ってから何を勉強したらいいか、自分は何をやりたいのか、これからの目標を決める上で良いきっかけとなった経験だと思っています。

◆**今回の留学を通して自身が成長したな、変わったなと思う面はありますか。**

失敗を恐れなくなったと思います。日本にいるときは、例えば答えがわかっているのに授業内で発言をしないことが多かったと思いますが、留学中の語学学校の授業では、皆が真面目に意欲的に勉強をしていました。私のクラスは日本人と中国人が大半で、トルコ人の男の子が1人いたのですが、中国人もトルコ人も日本人とはキャラクターが全く違い、間違いを恐れずにどんどん手を挙げて発言するため、「間違えることは恥ずかしいことじゃないんだ」と思うことができました。

今までは先のことばかり考えて不安になり挑戦することすら無かったのですが、留学中は、たった一度しかないカナダ留学なのだから、という気持ちで何でもやれた様な気がします。何事もやってみると意外に楽しく出来るものだと思えたのもこの留学のおかげだと思います。

◆**留学を終えた今、今後の目標があったら教えてください。**

カナダに行ったとき、向こうの人が日本にとっても興味を持ってくれていることに驚きました。留学先で出会う人に「日本人です」と言うと、相手が日本に興味があってもなくても「日本ってこんな文化があるよね」と色々話してくれます。ただ、日本の話をされても意外と返せなかったりして、自分の国のことを私はあまり知らないのかもしれない、海外の人に日本の魅力を伝えられない、ということを実感しました。また特に仲良くしていた中国人の方たちはドラマもよく観ていて、日本の女優さん等にも詳しいくらい日本文化に興味をもってくれているのですが、その子たちに対してもあまり上手く話を返せなかったことを非常にもどかしく思ったのを覚えています。将来はホテルのコンシェルジュになりたいと思っているので、今後外国人観光客に日本のことを紹介できないのはまずいなと感じ、この留学を通してもっと日本について外国人に紹介できるようになりたいと思いました。帰国後の今の目標は、外国人観光客の方へのガイドボランティアに参加することです。そのために更に語学力を向上させたいです。

◆これから酒井さんの「後輩」となる学生へメッセージがあったらお願いします！

留学は留学前にどれだけ自分の納得のいく準備ができたかで大きく変わります。今から出来ることを精一杯頑張って、ご自身の留学を実りあるものにしてください！